

高校生の生活志向をめぐる調査研究

——「倫理社会」指導とその課題発見を求めて——

木村正雄

東京都立志村高等学校

1. 問題の所在

高校での「倫社」指導は価値観の指導の側面が強い。今日のように価値観が多様化している社会では一面的な価値観だけでは問題を起しかねない。しかし、さまざまな価値観の指導は早なる価値観の紹介に終りかねない。したがって生徒に価値葛藤を起させ思考を深めさせ主体的な生き方を指導する必要を感ずる。現実の生徒と教師の意識の相違が「倫社」指導のむずかしさとなっている点を考え、生徒の意識を「倫社」学習の側面から把握し、その指導の課題発見をする必要があると考える。

2. 研究の視点と方法

学習指導に必要な最低限の生活志向の検討として「倫社」指導に関連する生活と意識にしよう。すなわち、人間関係として交友問題を、生き方と生活志向として生きがいや現実の生活の当否を、宗教への関心として死生観や宗教心を、学習志向と人間に対する見方として学習の目的や人間に対する価値意識についてである。ただし、調査項目は体系的なものにまではいたっていない。質問方法は多肢選択法を原則とし、それ以外に自由回答法を併用した。サンプル数は、高校1年生男女、1567名、全国の高校を7地区に分け、全日制、定時制、職業科、普通科、計、33校。調査時は、1973年2月下旬～3月中旬。回収、集計を経て、分析、解釈を行なう方法をとった。しかし、分析のために他の若干の調査資料を補なわねばならなかった。

3. 調査結果の概要

(1) 交友関係。「自分の悩みなどを打ち明けられる友人」が「いる」のが男子46.1%、女子58.5%で約半数であり、「いない」は男子53.6%、女子

40.9%。女子より男子に友人が少ない。友指を求めながらも得られないのが現状。親友のできた場所は、「教室」で男子62.4%、女子73.4%でトップ、ついで「運動クラブ」で男子16.4%、女子11.4%。教室では女子に、運動クラブでは男子が多い。親友への忠告は、「あくまで行なう」が最も多く、男子36.0%、女子51.8%。ついで「わからない」男子43.7%、女子38.7%で、女子は規範的協力的で、男子は自我的、独立的、傍観的である。「わからない」が多いのも特徴。帰属意識については「父母」が48.5%と圧倒的に多く、ついで「学校の友人、先輩」で23.2%である。「教師」は極めて少ない。

(2) 生き方と生活志向。生きがいは、「旅や登山」20.2%、「友人や異性と話しをしている時」16.0%、「クラブ活動」15.7%、「一人で何かしている時」13.6%、「家族とのだんらん」12.6%などが多い。「授業・勉強」2.4%で「モーゼン・パンコ」2.4%と同数である。概して遊び志向の傾向が強い。性別では「家族とだんらんしている時」が女子に多く、「繁華街をふらついている時」が男子に多い。

現実の高校生活で「否定したいもの」は「喫煙」「飲酒」「ゲバルト」「さぼり」が多く、ついで「受験勉強」「テスト」「モーゼン」「遅刻」「政治活動」「制服」の順である。性別では男子に「受験勉強」、女子に「飲酒」が上位にランクされているのが目立つ。「尊重したいもの」は、「クラブ活動」「文化祭・体育祭」「遠足・修学旅行」が多く、ついで「生徒会」「ホームルーム」「制服」「二人だけの男女交際」「清掃」「政治活動」の順である。性別では、男子に「二人だけの男女交際」が目立つ。「改善したいもの」は、

「受験勉強」「生徒会」が多く、ついで「テスト」「制服」「ホームルーム」「政治活動」「クラブ活動」「文化祭・体育祭」の順である。性別では男子に「テスト」、女子に「ホームルーム」が目立つ。「将来の生き方」は「心の豊かな生活」33.3%、「平凡な生活」27.9%、「好みの生活」22.2%、「金もうけ快適な生活」9.8%で、「社会に貢献する」3.2%、「高い地位や名誉」2.9%は極めて少ない。性別では、女子は特定の生き方に集中しているが、男子は生き方が多様でバラエティに富む。

(3) 宗教への関心、神や仏を「信ずる」は23.5%、「信じてない」18.8%、「どちらともいえない」57.4%。性別では、女子は「信ずる」が「信じてない」の2倍以上である。課程別では職業科の生徒は「信じてない」割合が高い。「自分の死」については「いつも考える」14.9%、「時々考える」71.8%、「考えない」13.0%である。「自分が死んだらどうなるか」、「肉体はなくなるが魂は生き続ける」19.8%、「何ものかに生まれ変わる」18.9%、「魂も肉体もすべてなくなってしまふ」21.2%、「わからない」39.4%。性別では、女子に「肉体はなくなるが魂は生き続ける」26.6%が多く、男子に「魂も肉体もなくなってしまふ」24.7%が多い。「宗教は人の心のよりどころや自己の修養のため大切」だと「思う」35.0%、「思わない」23.3%、「どちらともいえない」41.2%。性別では「思わない」に比較的男子に多い。普通科の生徒に「思わない」が比較的高い。「自分に強い自信があれば宗教は必要でない」と「思う」43.2%、「思わない」26.2%、「どちらともいえない」30.1%。性別では、男子に「思う」49.5%が比較的多い。また、普通科の生徒に「思う」44.5%が多い。「宗教は科学や理性と矛盾するものであり、科学が進歩すれば信仰はなくなる」と「思う」49%、「思わない」78.2%、「どちらともいえない」16.5%。性別では大差なく、定時制の生徒に「どちらともいえない」30.8%が比較的多い。「何れかの宗教を信ずることができる人は幸せである」と

思う」28.4%、「思わない」34.5%、「どちらともいえない」36.7%、「どちらともいえない」が女子や職業科の生徒に多くみられる。

(4) 学習志向と人間に対する見方。

学習したい内容とみていくと「人間の心理や心の悩み」41.3%、「現代社会のしくみやはたらき」19.8%、「哲学者や文豪や宗教家の考え方について」7.7%。性別では、女子に「人間の心理や心の悩み」52.4%に比較的多い。

人間に対する見方は、「理解することのできない」22.0%、「矛盾している」22.2%、「利己心の強い」が多い。性別では、女子は「矛盾している」「理解できない」が男子は分散が大である。定時制の生徒は比較的分散が大である。価値の程別からみると、「反価値」36.8%、「正価値」10.0%で男子の方が「反価値」の割合が高い。全体的に人間への否定的意識が強い、肯定的意識からみると定時制の生徒が最も強く、職業科、普通科の順となっている。なお、最近の新聞やテレビをみて最も興味や関心をもったものは、「公害」「子捨て・子殺し」「青少年の自殺」「ベトナム」「アラブ・ペリウ」である。ともに生命にかかわる問題に関心が強い。

4. 問題点の検討（略）（発表当日）

5. 課題発見への示唆

- (1) 一人一人の生徒を学習の場で人間的に認識できるように方法を考えること。具体的に発表、討論、話し合い等、中にもたせ学習内容と方法をとり、人間関係を活用した指導が望まれる。
- (2) 高校生活を改善する意欲を養うこと。その障害を取り除いてやること。生活と関連した指導のあり方を求めること。
- (3) 小市民的な生き方や物質的豊かさだけを求めるだけでなくさまざまな生き方があることを強調する。特に将来に展望のもてる積極的な生き方を示すこと。宗教の見方、考え方も積極的指導が必要。
- (4) 人間の見方にはさまざまな見方があること副次させ、人間尊重、人間のすばらしさを認識させる指導が必要である。